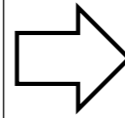


# A 商店街内の新しい拠点の開設

平成28年2月19日

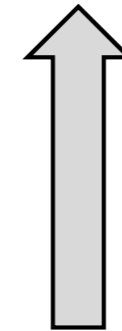
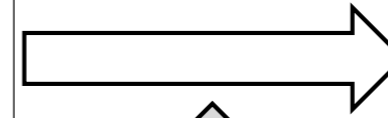
## 若者にとっての商店街の現状（評価・問題点・課題）

- ・若者向けの品揃えや商店が少ない
- ・飲食や買物だけではない利用の仕方ができる場所がないので、商店街を利用するきっかけが無い。
- ・余暇を過ごしたり、趣味を生かすような場所が無い。
- ・商店街だけでなく地域の情報が伝わってこない。
- ・アルバイトできる場所が少ない。
- ・若者同士、世代が違う人同士と交流していない。
- ・元々商店街を利用する習慣が身につけていない。
- ・郊外型店、大型店、量販店が慣れている。



## より良い商店街のために何が必要か？（コンセプト・視点）

- ・気軽に利用でき、長時間利用できるような「拠点」を創りあげることによって、様々な世代間交流を画策し気が付かなかった交流によるメリットを知ることによって、商店街エリアの利用者を増加させる。
- ・商店街エリア利用者への有益な情報提供を武器として地域商業・サービス業活性化のヒントを見つける。
- ・様々な世代間の交流から、商店街が求められる機能を再発見し、地域住民・若者・事業者間の好循環による気付きを促進する。



## 魅力ある商店街への提案とその効果想定

（こうやったら、こう変わる！）

- ・様々な世代間の情報共有により、地域住民と商店街との相互理解が進み、活性化の元となる。
- ・不足している機能・業種・サービスを再認識し、新たなテナントミックスを画策できる。
- ・商店街自身の業種業態の見直しが促進できる。

## 魅力ある商店街のための具体的提案

第3回合同検討会及び第7回学生チームWSによる意見交換

具体的提案内容（事業内容、スケジュール）

### <コミュニティカフェ？> ※3月先進地視察を検討

- ・せめて夜は11時迄利用できる場所が欲しい。（学生が勉強できるスペース）
- ・午前（高齢者）、午後（教室）、夕方（子供）、夜間（学生）と利用主体を変えることも可能。
- ・拠点があるだけでなく「魅力」を持った機能が必要だと思う。

例えば、主婦シェフランチや女子大生カフェなど、機能そのものに魅力が必要。

商店街に無い

「駄菓子屋」

「限定！主婦シェフランチ」→ 曜日を決めて普通の主婦がランチを提供  
定額500円程度で20食限定販売など

「ハンドメイドBOXショップ」→ 50cm四方の枠で募集して、ハンドメイドな商品を製作している方々から商品を預かって委託販売を行う。

「1坪チャレンジショップ」→ 1坪月額1万円程度の家賃で、新たに商売を始めたいと希望している意欲ある若者の出店を募る。

「歌声喫茶」「認知症防止体操教室」等、日中利用可能な方々向け教室

「外国人交流カフェ」 → 月1回程度で外国人を招いた交流カフェ

- ・若い女性世代をターゲットに絞った業種、サービス等を狙うほうが波及効果大きい。  
雑貨類（アクセサリー、家具）、カフェ、スイーツ、ネイル等  
ラーメン以外の洋食や定食

1. 「コミュニティカフェ」という名称は耳慣れない。もっと親しみのもてる名称を期待。
2. 「外国人交流カフェ」は、留学生も含めて非常に興味深い。ぜひ取り組みたい。
3. 時間帯別に対象者を変えて運営するのは無理があるのではないかと。特に、管理運営のための管理人の人件費が資金的にネックになりそうな気がする。学生アルバイトを利用して管理運営する仕組みも検討したい。
4. 学生を対象とする拠点を考える場合、夏休みなど長期休暇の時期は学生が居なくなる。そういう時期の活動については充分検討する必要がある。
5. 主婦シェフランチと共に、学生プロデュースのお弁当なども検討したい。
6. なるべく自由な商売ができるような拠点とならないと、資金獲得が不安になっている。
7. 子供対象だけではなく、大人対象の「駄菓子屋」があってもよい。
8. ハンドメイド製作者は多いので、BOX ショップなどは将来性があると思われる。
9. 建物にこだわらず、佐賀市のコンテナを使った空地利用集客拠点は充分可能性がある。
10. 空地を利用した「コミュニティ農園」として年間通して活動したい。
11. 既存の飲食店の空き時間などを利用する方法のほうが十分可能性があると思われる。夕方から営業を始める居酒屋さんなどの、昼から午後の時間を利用する手がある。老舗の割烹が街なかにあるので、上記のアプローチで提案するほうが早いのではないかと。
12. 拠点を検討し整備する段階から、子供を始め地域の住民と一緒に取り組む方法が望まれる。



学生や若者が望む拠点の機能と、地域商店街や地域住民が望む拠点の機能が違っているのがわかってきた。先進地視察での各地の情報を把握した上で、具体的な拠点の機能を絞り込み、事業計画に落とし込んで提案することとしたい。